

2011.03.27 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



<ジョン・オズワルト著 『聖』を生きる人々>

第11章「聖い人生を体験していくには」

テキスト:

「平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、・・・完全に守られますように。あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてくださいます。」(1テサ5:23-24)

はじめに:「主が備えておられる聖さ」という特権を使わないで、低い水準で生きているクリスチャンが多い(豪華客船の乗客の例)。それに対する答えを第一テサロニケ書から読み解く。

A. 素晴らしいテサロニケ信徒

1. 本当に回心している(1:8-9)
2. 迫害にも拘らず信仰は動揺していない(3:6)
3. 愛に満ち溢れている(3:7-9)

B. 「信仰の不足」がある信徒

「再臨待望」が行き過ぎて、仕事や生活に落ち着かない信徒がいた。パウロは、再臨に備える心の姿勢として、真の聖化と新しいレベルでの愛の必要を訴える(3:12-13)。それを妨げているのは「肉性」であるが、その解決のためには、信仰が必要(ガラテヤ5:16、24)。信仰を働かせるべき分野とは:

1. 性の純潔 vs 性的欲望の誤用(4:3-8)
2. 見返りを求めぬ兄弟愛 vs 自己中心的愛(4:9-10)
3. 指導者への尊敬 vs 面従腹背(5:12-13)
4. 弱者への思いやり vs 傲慢(5:14)

5. 自己規律 vs 娯楽の追求(4:11-12)

それらの結果が、常に喜び、絶えず祈り、全てのことを感謝する心
(5:16-22)

C. 聖さのための祈り(5:23-24)

1. 聖なる心を可能にするのは神ご自身。聖なる生活は、努力の結果ではなく、神の業である
2. 生活の歩みのすべての点で（ホロス＝すべての分野で；テロス＝完璧に）聖め給う
3. 神の真実さがそれを実行してくださると確信。

付：神の業には、瞬時的側面（＝聖なる者とする）と継続的側面（＝保つ）がある。

“Holiness unto the Lord” is our watchword and song;
“Holiness unto the Lord” as we’ re marching along.
Sing it, shout it, loud and long;
“Holiness unto the Lord” now and forever.